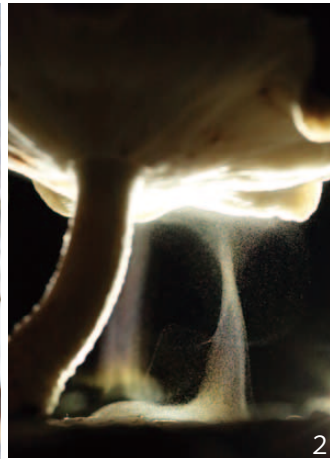


# 住人十色

第57回



1 愛用のカメラを手にする中嶋さん 2 中嶋さんの作品「胞子のアート」 3 小田深山で撮影した「カタクリのめざめ」

## 内子の一瞬を撮り続ける高校生カメラマン

中嶋 <sup>ひろき</sup> 浩貴さん (17) 恩地

昨年11月、愛媛新聞の「読者の写真」で、シイタケから胞子が飛ぶ様子をきれいに捉えた写真が掲載されました。撮影したのは中嶋浩貴さん。小田地区に住む高校2年生です。

中嶋さんがカメラを始めたのは、小学5年生のとき。コンパクトカメラで風景などを撮って遊ぶのが好きだったそうです。12歳のときに知り合いから一眼レフカメラを譲ってもらい、本格的にカメラを始めました。「二度と訪れない一瞬を残せる」と、その魅力を語ります。

好きな撮影場所は小田深山や四国カルスト。週末になると町内で原付バイクを走らせて、被写体を探します。「小田深山も原付バイクで行く。冬は寒いので、早く車の免許がほしい」と笑います。

カメラ仲間の山本勝利さんかつとしと上川中なかには、「高校生の目線、独自の感性で撮る写真は斬新で、これからの作品も楽しみ。写真は一期一会。うまく切り取って、小田の魅力を残してほしい」と若いカメラマンに期待します。

中嶋さんは「カメラの楽しさが変わらないよう、仕事ではなく趣味として続ける。内子や愛媛の美しさ、日々変わりゆく自然の姿を写真で残せるよう、撮り続けたい」と目を輝かせていました。

### 編集 幸記

▽お正月休みを利用して、「半沢直樹」がやっと見れました。「倍返し」を言いたくてウズウズしますが、「今頃？」と言われそうなので自粛しています。時間に余裕も持って、時代の流れについていかなければ……。 (裕)

▽小田川河川敷を利用して開かれたシクロクロス。広い場所ではなく、細い道や縁石がたくさんある同河川敷に専用コースを作り、全国規模の大会が行えたことに驚きました。その発想力と行動力はぜひ見習いたいと思いました。(カ)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の  
フリーダイヤル  
☎0120(44)2130

